

秋
号

京 印 季 報



秋季特別企画

上支部・中支部・下支部・東山支部・南支部 各支部長の皆様との記念座談会
「組合創始130周年に向けて、“これまでのこと”と“これからのこと”」



京都府印刷工業組合

2020 Vol.652



目次

巻頭言／理事長 笹原あき彦	2
秋季特別企画	
上支部・中支部・下支部・東山支部・南支部 各支部長の皆様との記念座談会 「組合創始130周年に向けて、“これまでのこと”と“これからのこと”」	4
新型コロナウイルス関連支援策活用緊急セミナー開催(オンライン他)	12
令和2年度近畿地区印刷協議会 各委員会開催(オンライン)	13
北部地域懇談会開催	14
組合創始130周年記念事業 開催に際して	
ポスター・チラシ・プログラム等 統一デザインコンペ作品募集のご案内	15
7月・9月定例理事会開催概要	18
委員会だより／共済委員会	19
支部だより／下支部	22
会合だより／京都青年印刷人月曜会	23
／京都印刷協和会	25
関連団体だより／京都府紙器段ボール箱工業組合	26
／(一社)日本グラフィックサービス工業会京都府支部	27
統計だより／印刷産業関連指標・京都府工業統計(印刷業)より	28
パートナーシップ会員のご紹介	29
組合員ニュース	30
新型コロナウイルス感染症に関する事業者向け支援制度について	33
研修会等収録DVD貸し出しのご案内	36
書籍のご紹介	37
パートナーシップ会員異動	37
事務局からのお知らせ	38
組合員異動	38
印刷会館利用状況	39
組合日誌	40
編集後記	41



表紙イラストレーション コンセプト

秋の風物詩であるお月見の風景を描きました。秋が最も美しく見えると言われている月を1番大きく、そしてその月を眺めている2人、2人の周りには星、流れ星を描きました。全てイラストレーターで描いています。涼しくなった夜に友達や家族と大きな月を静かに眺めている。そんな秋の空気感を感じていただきたいです。

京都芸術大学(旧京都造形芸術大学)3年生 二井 香帆

巻頭言

京都府印刷工業組合理事長

笹原あき彦



5月の就任以降も、withコロナの日々が続いています。

もちろんこれは、印刷産業だけに限ったことなく、あらゆる会社や職場、教育機関をはじめ、様々な場所で、これまで当たり前になっていた、ごく普通の活動を行うことが困難となり、私たちはまさに安全確保と経済・社会活動の板挟み状態となっています。

そんな中、本組合では今年度の行事のうち、コロナ禍により表彰式と懇親会、ビアパーティーの開催を自粛し、開催を見送りました。

また、いくつかのセミナー、委員会等をリモート(ハイブリッド)により開催して参りましたが、そのようなりモート事業の開催を行っているなか、当初は物珍しさが手伝い、文明の利器を使いこなす(つमoriの)自分自身に酔いしれ、その便利さにありがたさを感じ、アナログから少しはデジタル化への前進が計られたのかとささやかに喜びつつも、一方では何か物足りなさというのでしょうか、コロナ禍以前の事業実行では感じていなかったことを、徐々に思うようになり始めていきました。

私を感じ、求めていたことは、人の話し声(息遣い)、人から発する気配が直接に感じられる、距離感や空気感といえはよいでしょうか、生身の人間とのコミュニケーションであると、そんなことを改めてリモート運営が気付かせてくれました。

でもこれは、私だけでなく多くの組合員様も同様にお感じになっていらっしゃるのではないのでしょうか。

これはリモートを否定しているわけではありません。いままで開催したリモート会議・セミナーに参加される方々の時間・コストだけをみても私たちにもたらすメリットは相当に大きなものが生まれていますし、また今後はリモートだからこその可能性を活かした、見たり・聞いたり・参加したりできる勉強会等も増えていくと思われます。これらメリットを最大限に享受し、さらに充実した事業の展開につながることを期待しています。

今後の事業、特に多くの組合員様が集う事業の開催については、コロナ禍以前と同じような設えで開催することは出来ませんので、リスクを徹底管理のうえ、今出来る範囲で、一歩づつ確実に実行していきたいと思っています。基本的な感染予防対策は当然の



ことながら、その場での検温や京都市等の安全追跡サービスの利用、利用会場との打ち合わせ、もしもの時の発生時の対応方法の検討など、知りうる、考えうる対策を今まで以上に厳密に行ったうえで感染リスクを最小限に抑え、組合員の皆様に少しでも安心してご参加いただけるよう配慮して参ります。

先日、全印工連ではオンラインフォーラム2020が開催され、滝沢会長から全国4,300社の組合員に向けてメッセージがあり、また今後私たちが進むべき方向性としてデジタルトランスフォーメーション(DX)についての丁寧な解説もありました。その中では、印刷産業はそもそもデジタル化が遅れているが、「デジタル化やデジタル技術とデータの活用により、印刷産業が抱える諸問題を改善し、生産の効率化やビジネスモデルの変革を促進することで構造改革をもたらし、印刷産業がひかり輝く産業として変貌を遂げ、HAPPY INDUSTRYとなること」を目標とし、さらには経済産業省による印刷産業に関する調査の中からみえた諸課題を指摘し、底上げの提言である「地域の様々な企業連携」「個々の得意分野の把握」「稼働情報データの連携」「管理コストの引き下げ」の4項目をDXでドライブし「生産性向上」や「付加価値創出」に繋げる、とされています。

具体的には、全印工連のDXにより、基幹業務システム、受発注システム、生産管理システムを中心とした新たなプラットフォームが造られ、様々な規模の企業、全国の組合員様が、この三つのシステムで繋がり、成長へのスパイラルに乗っていくことを目標とされています。

解説の最後には、このシステムについて「受発注をただ効率させるだけの印刷通販と異なり、このグループへ参加することにメリットがあると判断した企業同士のビジネスアライアンスです。大小規模の様々な印刷企業が参画し、それぞれ強みをシェアしあうことをこのDXでは目指している」と締めくくられています。

このような「高付加価値情報サービス産業」へ転換するには、無策のままでは決して出来ません。京印工組では、組合員皆様が成長へのスパイラルに乗り、共に持続可能な成長をとげるよう、これからも研究をつづけてまいります。

どうか、引き続き組合員様からのご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

上支部・中支部・下支部・東山支部・南支部 各支部長の皆様との記念座談会 ～組合創始130周年に向けて、“これまでのこと”、“これからのこと”～



座談会出席者 前列左より永田耕蔵氏、北尾盛貴氏、笹原あき彦氏、中島 健氏
後列左より高橋東作氏、山下泰茂氏、藤井康央氏、波部郁司氏

令和2年9月8日(火)正午より京都印刷会館1階第2会議室において、組合支部長の皆様と笹原理事長による特別座談会が開催されました。

本座談会は、組合創始130周年を迎え、これまでの組合活動、そして支部活動を振り返り、組合や支部組織が「これまで行ってきたこと」、そして「これから行うべきこと」について、支部組織の要となる支部長の皆様より、ご意見・ご提言を頂き、組合並びに印刷業界の発展的な未来像を考察することを目的に企画したもので、第1回目の今回は、上支部・中支部・下支部・東山支部・南支部 各支部長の皆様ご参集のもと、活発で充実したディスカッションが行われました。

今回の特集記事では本座談会の要旨をご紹介します。是非ご一読下さい。

出席者

笹原あき彦氏〔京都府印刷工業組合	理事長／文屋秋栄(株)〕
永田 耕蔵氏〔京都府印刷工業組合	上支部長／(有)永田印刷〕
山下 泰茂氏〔京都府印刷工業組合	監事・中支部長／(有)修美社〕
高橋 東作氏〔京都府印刷工業組合	副理事長・前下支部長／朝陽堂印刷(株)〕
藤井 康央氏〔京都紙印刷工業組合	副理事長・下支部長／共栄印刷紙業(株)〕
北尾 盛貴氏〔京都府印刷工業組合	理事・東山支部長／(株)洛陽〕
中島 健氏〔京都府印刷工業組合	南支部長／(株)新進堂印刷所〕
波部 郁司氏〔京都府印刷工業組合	理事・広報委員長／(株)波部太陽堂〕

(上支部・中支部・下支部・東山支部・南支部 支部長による記念座談会要旨 発言者の敬称略)

はじめに

笹原：皆様こんにちは。組合の理事長を務める笹原です。本日はご多忙の中、本座談会にご参集頂きましたこと、心より厚く御礼を申し上げます。



組合が創始130年という大きな区切りを迎えるに当たり、その記念事業として、広報委員会主催で支部長の皆様との座談会を開催するという企画が立案されました。日頃、組合活動を支えて下さる支部長様から、印刷業界や組合活動の今昔、そして組合に期待をすること等々、時間が許す限り、お話を聞かせて頂きたく存じます。どうぞよろしくお願い致します。

波部：組合の広報委員長を務める波部です。本日の進行を担当させて頂きます。不慣れな点もございますが、何卒よろしくお願い致します。



今回の座談会は、各地域の支部長の皆様、そして青年部組織の京都青年印刷人月曜会や友好団体の京都印刷協和会代表者の方々との座談会を企画し、組合へのご提言をお伺いするという趣旨で立案したものです。今回は第一弾として、上支部・中支部・下支部・東山支部・南支部の各支部長の皆様よりお話をお聞かせ頂きたく存じます。

業界に入られた時期、組合活動(事業)に参加するきっかけについて

波部：それでは早速ですが、本日のテーマである「組合創始130周年に向けて、“これまでのこと”、“これからのこと”」に則り、まずは自己紹介を兼ねて皆様の業界に入られた時期と組合活動に参加することになった契機について、ご着席順にお聞かせ下さい。

永田：上支部の支部長を務める永田です。当年で72歳になりました。この業界に足を踏み入れたのは50年前です。その頃は景気もよく、何をしても



楽しい時代でした。組合活動に参加することになったのは父の影響です。当時、父は上支部の役員を務めていたこともあり、支部の同業者の方も、若輩者にもかかわらず私を温かい目で見てくれていました。

よって、組合や支部活動には何の違和感もなく参加することができました。ほどなく青年部組織の月曜会(京都青年印刷人月曜会)からもお誘い頂き、青年部の活動にも参加するようになりました。

山下：中支部の支部長を務める山下です。私の場合も父の代から組合のお世話になっていました。昭和45年頃だったでしょうか、当時の私は大阪の印刷会社に勤めていたのですが、事情により呼び戻されることになりました。早いものでそれから50年経ちました。



小学校の卒業記念誌の中に「20年後の私」という題材があるのですが、驚いたことに、私の欄に「俺、印刷屋をしている」と書いてありました。物心ついた頃から「印刷屋になる」と決めていたのだと思います。

周りから印刷屋を継げと言われたことはありません。父と母の背中を見ていて、いつかは継がなければいけないと思っていたのかもしれません。父はもとより、母もインクまみれになる程仕事に没頭していました。

組合活動に関しては、父が組合の役員を務めていたこともあり、少しずつ携わるようになりました。そして永田上支部長と同様、青年部組織の月曜会に誘って頂き、一気に交流の機会が増えました。また、代役として参加させて頂いた京都印刷協和会の懇親会では、名刺代わりにご披露した歌が評判になり、交流の輪が更に広がりました。そのようなことを積み重ねて本日に至っています。

中島：南支部の支部長を務める中島です。私が会社を継ぎ、印刷業界に携わることになったのは35歳のときです。それまでコンピューター関係の仕事をしていました。1980年代前半、マッキントッシュ



シュが製版やDTPの領域に入り込んできて、当社もコンピューター化に取り組むことになり、呼び戻された次第です。

組合活動に参加するきっかけは、当時、社長であった叔父が組合の役員をしていて、ちょうど改選の時期であったことから、交代することになりました。36歳の若輩で全く何も分からない状況でしたが、それから20年近く理事を務めさせて頂くことになりました。

当時、組合事業としてバスを利用した日帰りの研修会があり、関西学術研究都市が開かれつつあったとき、見学先としてけいはんな記念公園が選ばれ、南支部の理事として幹事を務めさせて頂いた思い出があります。

また、組合に高度化技術委員会が立ち上がり、認定職業訓練を実施することとなり、鈴木委員長、佐藤委員長の時代に委員として参画させて頂きました。DTPに詳しい森田美術印刷の森田隆司氏も参画されており、自社にも役立つ情報が得られることも少なくなく、委員会活動も面白く、積極的に参加させて頂きました。



北尾：東山支部の支部長を務める北尾です。この業界に入った時期は45年位前だったと思います。私の兄がグラフィックデザイナーで、当時、商業グラフィックスの事業を営んでいました。叔父は

小学校のプリント等を作っていて、少なからず印刷に関係していることもあり、印刷には興味を持っていたのですが、実際に業界に足を踏み入れてみると、思っていたのとは大違いでした。想像以上に複雑で、どうしていいのか分からなくなったこともありましたが、踏み込んでみると奥深く面白い。一人前になるには10年はかかると言われていましたが、いつの間にか40年以上も経っていました。

組合活動のきっかけは、支部行事への参加からです。当時は東山支部にも沢山の支部会員がおられ、参加する都度、その活気に圧倒されていまし

た。10年位前から会員が減りだし、支部行事に参加する人も少なくなりました。そのような中、私に支部長の役が回ってまいり、どこまでお役に立っているかわかりませんが、支部活動や組合事業のお手伝いをさせて頂いています。

波部：次に下支部ですが、下支部はつい最近、支部長が交代されましたので、本日は新旧2人の支部長にご出席頂きました。初めに、8月の支部総会で新支部長に就任された藤井支部長にお願いします。



藤井：下支部の支部長を務める藤井です。先月末に就任したばかりの新米でございます。

私は学校を出て2年間、異業種の会社に勤めていました。昭和60年代頃は、山下中

支部長が述べておられた通り、何も言わなくても子は親の仕事を継ぐという時代でした。私には兄がおりますが、兄も同じ考えだったと思います。

今の会社に入って1年後、社長を務めていた父親が亡くなりました。その後、しばらく母が社長を務めていましたが、兄と私で印刷業界の仕事を分担することになり、私は印刷組合を担当することになりました。組合参加のきっかけは下支部でした。

その頃、一番年代が近く、よく支部会でご一緒させて頂いた先輩が、現顧問の吉川氏と瀧本氏でした。それでも私より一回り以上の年上ですが、吉川氏のお誘いで月曜会にも入ることになりました。

実は、ISO9000の認証を取り、異業種の人との交流も増えていたので、月曜会を辞めようと思っていた時期がありました。そのタイミングで会長を引き受けて欲しいと要請があり、大いに悩んだ末、色々経験をした方がよいとの助言もあり、お受けすることとし、今に繋がっています。

この時もし月曜会を辞めていたら、理事になっていなかったかもしれません。月曜会の会長に就任後、全国印刷緑友会の常任幹事を兼務することとなり、次第に日本中に仲間が増えました。全日本印刷文化典京都大会が開催される際は、全国に交友関係があるからと組合の執行部にも誘われま

した。全て月曜会の会長就任から始まったように思います。

波部：続いて高橋前支部長、お願い致します。



高橋：先月までの下支部の支部長を務めていました高橋です。藤井新支部長に職務を引き継ぐことができ、大きな役割が果たせたとはっとしています。

私も実家が印刷業を営んでいましたので、印刷は家業であるという認識を持っていました。いつか家の手伝い、印刷業を継ぐという気持ちは子供の頃からありました。初めは他業種の会社に勤めていましたが、昭和63年に父が亡くなり、近親者からの助言もあり、平成3年に今の会社に入社しました。それから30年位です。皆様に比べると、まだまだ経験不足かもしれません。

組合活動への参加は、理事の職を拝命したことから始まりました。組合の理事長を務めていた前社長が退任し、現顧問の吉川氏が理事長に就任されたときでした。前社長に代わり、組合のお手伝いをしなければという思いがありました。

組合の行事に初めて参加したのは、下支部の総会旅行でした。出席予定の方が参加できなくなり、代わりにとお誘いを受け、参加させて頂きました。周りは大先輩ばかりでしたが、思いのほか楽しいひと時を過ごすことができました。組合事業への参加は、総務委員会の活動が最初だったと思います。

また、現顧問の瀧本氏が理事長に就任されると、自分の代わりに下支部の支部長を務めるよう要請され、以降、10年間支部長を務めさせて頂きました。

波部：続いて笹原理事長にもお願い致します。

笹原：私は東山支部に所属しています。この業界に入るきっかけとなったのは、職場体験を通し、以前の勤務先である印刷会社に入社したことが始まりです。大変心の広い社長がおられ、熱心に入社を誘って下さいました。

組合との接点は月曜会への入会がきっかけです。藤井下支部長と同様、現顧問の吉川氏が勧めして下さいました。月曜会を通して同世代の業界仲

間を得ることができ、大変心強く励みになりました。自分も頑張ろうという気持ちになりました。当初は青年部のみの参加でしたが、やがて東山支部にも顔を出させて頂くことになりました。当時、東山支部の懇親会で必ず聞かせて頂いた話があります。それは第二次世界大戦のお話です。戦地から無事に帰ってこられ、現役で印刷のお仕事をされている先輩が2人おられました。酔うと必ず「昔、〇〇の戦地に行った」など、大変貴重な話を聞かせて頂いたことを今でも鮮明に覚えています。

波部：それでは、最後に私から述べさせて頂きます。所属は下支部です。子供の頃から父の仕事の手伝いをしていて、荷物の納品について回っていました。中学の頃になると、ハイデルのプラテンという小さな印刷機を使わせてもらい、少しずつ仕事を手伝うようになりました。高校では、オートンと言うトムソンの自動機を使ってアルバイトをしていました。その後、夜学の短大に通っていた頃は、午後3時頃まで仕事を手伝っていました。卒業後、正社員としてフルタイム働くようになり、10年位経ち、工場を建て替えた頃に専務に昇進しました。それから数年後、父が病気になり、少し気落ちしたのかもしれません。私が36歳位の頃、社長を引き継ぐよう言われました。そんな父も4年前に亡くなりました。

私も組合と関わるきっかけになったのは月曜会の活動です。工場を建て替えた頃、オリーブ会という組合の女性の会が活発に活動していました。私の母はオリーブ会仲間の爲國千鶴子氏と懇意にさせて頂いていて、爲國氏より、母親を通して月曜会への加入を勧めて下さいました。月曜会に入ることで、印刷のことで分からないことがあっても、気安く教えてもらえる人ができました。月曜会の活動には20年ぐらいい携わり、会長も務めました。会長の職を離れた途端、中西顧問・前理事長より、理事長推薦するので理事を務めて欲しいと要請され、現在に至っています。そして今年の役員改選の後、笹原新理事長より広報委員長の職を拝命し、僣越ながら務めさせて頂いています。

各支部地域における業界情勢と、組合や支部組織が行うべき活動

波部：次に、各支部地域の業界情勢や、組合(支部)



が行うべき活動について、忌憚のないご意見、ご提言をお聞かせ下さい。

永田：率直に申し上げて業界情勢は悪いです。8割から9割の支部会員は悪いと感じていると思います。加工先も仕入先も同様です。特殊なことを取扱う会社は影響が少ないようですが、限られています。

組合の活動ですが、今の時代、共通のテーマを見つけるのは非常に困難だと思います。企業間格差、取り扱っている品目等、同じ印刷会社でも違う業種かと思うくらい業態が違います。30年、40年前なら、コンピューター化に向けた講習など多くの会社に共通する課題がありましたが、最近はニーズが多様化しています。従って、講習会を開いても集まってもらえない。それなら、あえて印刷にとらわれず、一般的で多くの人の興味を引くテーマのもと講演会を行い、意見・情報交換することで仲間意識を深める。そのような趣旨で企画する方が得策のような気がします。

本日は月曜会の話題が沢山挙がりましたが、月曜会を卒業したメンバーは組合活動に軸足を移しています。これからも月曜会は、若い人を育て、次の理事や理事長候補を次々と送り出して欲しいと思います。ただ残念なことは、女性が少ないことです。組合員の中には女性の経営者や経営者候補も少なからずおられると思います。男性だけでなく、女性にも積極的に組合活動に加わって欲しいと思います。

上支部の懇親会でも女性の参加は少ない。また、若い人の参加も少ない。誘ってもなかなか来られない状況が続いていましたが、最近になり、ようやく若い人も来てくれるようになり、とても助

かっています。月曜会の会員が支部会にも参加してくれるようになると、組合の活動も活気が出てくると思います。

藤井：高橋前支部長の前の下支部長をされていた瀧本顧問が支部長に就任された際、「これからは君たちの時代だから、支部会の活性化のため頑張ってもらいたい」と、副支部長として、私を含めた3人の若い世代が指名を受けました。その後、10年、15年が経ち、ようやく現在40代から70代までバランスよく支部会に参加して頂けるようになりました。

山下：参加しやすい体制を作ることが大事だということですね。月曜会を経て組合活動に参加する人は、同世代の仲間が大勢いるので無理なく溶け込める。組合活動に縁の無かった人にも参加しやすい環境作りが必要だと思います。

中支部では御夫婦で参加してくれる割合がとても高い。一度参加されると、奥様同士が仲よくなり、誘い合って来てくれるようになりました。おかげさまで、絶えず30人弱くらいの方が参加してくれます。

永田：上支部は会員数が少ないので、支部旅行がなかなか行えません。直前にキャンセルしなければならぬことが何度もあり、最近は企画もできなくなりました。

可能であれば、他の支部さんと合同で懇親会や旅行ができればと思っています。支部毎に掛金が違うので多少の調整は必要ですが、実現すれば支部間の交流も深まるのではないかと思います。

北尾：私は昨年、今まで面識のなかった支部会員の方の事業所を全て訪れてみました。お会いすると、話をきちんと聞いて下さり、これからはご参加頂けるのではという印象を得ました。残念ながらその直後の支部会にはご参加頂けませんでした。タイミングが悪かっただけで、次は参加して下さるかもしれないという期待を持っています。

笹原：東山支部会員に該当する地域に会社があっても、東山支部に未加入の組合員が少なくありません。しかし、組合員名簿上では東山支部の頁に掲載されているために自社が支部に加入されていると思われているケースが多々あることがわかりました。北尾支部長は、そのような人たちの誤解を解くため、東山支部という組織があるので是非

ご加入下さいと、新たな支部会員の掘り起こしを行って下さいました。

中島：南支部地域の会員は、当社(宇治市)と大黒印刷さん(綴喜郡宇治田原町)、吉山印刷さん(京田辺市)の3社となりました。加入率が低い地域で、横の繋がり、すなわち同業種の会よりも、直接仕事に結びつく異業種の会に参画する傾向が強い。異業種の会の中で、印刷会社の方がおられると、組合には様々な情報が入る、スケールメリットを活かした共済制度もあると加入を勧めてみるのですが、例えば共済制度は商工会議所にも同様の制度があり、印刷組合に入るメリットを感じてもらえないようでした。また、宇治市内でまともな印刷設備を有している事業所は10社もないと思われま。スメリットの大きな「設備共済」に関心を持つ会社も少ないように思います。

山下：組合の活動としては、これからは事業承継問題への対応が大事になると思います。中支部では、1人で商売してきた方が病気になり組合を退会してしまうケース、御夫婦で営んでいたところ、社長が具合を悪くして店を閉めてしまうケース等、後継者が不在のため事業を継続できないケースが増えています。支部としても、どこまで踏み込んでよいのか判断が難しい。

藤井：後継者問題は下支部でも大きな課題です。

永田：経費節減のために退会される会社もあります。

山下：経費節減を理由に組合や支部を止めようとする事には非常に残念に思います。発想を転換して欲しい。積極的に組合や支部活動に参加している人は、自分から業界仲間との繋がりを作り、そこから事業を発展させておられます。組合では理事会の議事録をはじめ様々な情報を発信していますので、是非ともアンテナを立てて、有益な情報を収集し、また、積極的に交流の場に足を運んで欲しいと思います。

組合(支部)、並びに印刷産業の発展的な将来像

波部：コロナ禍で未曾有の経済危機の時代ではありますが、ここからは、組合(支部)、並びに印刷業界における将来像、未来像等について、支部長各位のお考えをお聞かせ下さい。

永田：印刷にこだわり過ぎると未来像は見えてきません。もう少し間口を広げて、印刷の前後の職域も業態に取り入れないと将来像は描けないと思います。

藤井：自分の子供に継がせたいと思えるかどうかという判断基準があります。

永田：継ぎたいという想いをさせなければ継いでくれないと思います。私自身は親の仕事を継ぎたいという気持ちがありました。父は、「遊びたければ自分で稼げ、稼いだお金はいくら使っても構わない」という方針でした。それ程景気が良い時代だったのでしょう。今の時代、次の世代の人にも同じ想いをもってもらえるかは疑問です。しかし、社長が儲からない、赤字だと毎日話していたら、誰も継ごうという気持ちにならないでしょう。多少痩せ我慢をしてでも、後継者候補の前では景気の良い話をして会社の印象を良くしないといけないと思います。

笹原：未来像という言葉から考えると、漠然として大きな話を想像して難しいかもしれません。もう少し身近な話として捉えると、例えば、次の世代に社業をどう繋ぐのか、また、先程の方のように廃業をお考えの会社に対して、事業承継をどのようにしていくかという課題が見えてくると思います。

永田：次の世代へ引き継ぐということでは、山下中支部長がとても上手くされていると思います。兄弟で仲良く父親の仕事を継がれ、今では次の世代の息子さんが仕事の中核を担っておられる。理想的な事業の継ぎ方だと思います。

山下：長男は異業種の仕事をずっとしていましたが、25歳の頃、会社に帰ってきてくれました。それまでは忍之一字でした。

永田：山下氏は解散した協同組合京都府印刷総合製版センターの発足時からの仲間ですが、当時から一番の頑張り屋さんでした。その時代から父親の姿をずっと見ていたはずで。す。

山下：製版センターは、政府が構造改善事業を推進する中、同じ課題を有した組合員同士による画期的な取り組みだったと思います。今の組合には、当時のように、組合員が一丸となって取り組めるテーマがありません。業種が多岐に分かれ過ぎていることに加え、企業間格差も広がる一方で。す。

藤井：セミナーのテーマを考えるにしても、組合員共通の題材が無いのです。先程永田上支部長がご提案された、一般的なテーマによる講演会の開催は、大変興味深く参考になりました。

山下：組合員が減少する中、パートナーシップ会員とも連携を深める必要があると思います。

笹原：コロナ禍により総会や顕彰・表彰式典など様々なイベントを自粛した結果、パートナーシップ会員をお披露目する機会が少なくなっています。組合に力を貸して頂いているパートナーシップ会員を組合員に知って頂く機会をもっと作りたいと思っています。

波部：会社も減り業界は多様化している。以前は活版印刷であれば、薄紙でも厚紙でも版を作るのは一緒なので、共同で制作すれば安くなるという大きなメリットがありましたが、今はオフセット、オンデマンド、また活版も一部で需要が残るなど印刷の手法が多様化している。

永田：何に投資すればよいのかわからなくなり製版センターは解散しましたが、メンバー間の仲が良いので、いまだに旅行の計画が企画されたりしています。

波部：懇親の場として関係は続いているということですね。組合員と関連業者の集まりである京都印刷協会の趣旨も同様だと思います。祖父から聞いた話ですが、協和会の発足時は材料の共同購入が主な目的だったのですが、途中から方向転換し、懇親が事業の中心になりました。懇親も業界の発展・振興の一環として有益な活動だと思います。

中島：組合の役割として、組合員同士の相互扶助的な活動も当然必要ですが、一方で、倫理的、道徳的な問題も含め、組合員、印刷業界、印刷業者の地位向上を促すという視点も必要だと思います。入札の際、仕様書にオフセット印刷で何線以上と書いてあるにもかかわらず、事務用孔版印刷機で刷ったような印刷物がまかり通っていることもあります。

組合員の地位向上を目指して教育事業に注力し、組合加盟企業なら高品位の印刷物が納品されるので安心ということが広く認知されれば、印刷会社として、組合員として誇りをもって仕事が出るのではないかと思います。

笹原：仕様書を遵守する事は、製造を請け負う者の義務と考えています。但し、著作権の問題は別個にありますが、それはそれとして。価格面においても、入札のたびに値段を下げていては、結局は自分たちの首を絞めることになります。業界団体として、品質低下や過当競争を防ぐための施策を検討したいと思います。

一方で、学生が就職する際、印刷業界にどのようなイメージ持っているかと尋ねると、未だに「寅さん」の映画に出てくるような、うす暗い部屋で活字を拾う仕事、騒音の大きな旧式の印刷機を回して油まみれになる仕事、のようです。このような誤ったイメージを払拭するため、イメージアップのための活動にも取り組んでいかなければと思っています。

私たち業界人の行動の一つ一つが印刷業界の模範となっていることを認識しなければなりません。言動に気をつけ、周囲からは常に見られていることを意識しなければなりません。業界の地位向上の一つの基準として、全印工連ではCSR認定制度を推進しています。業界の信用度を高める活動も必要だと考えています。

藤井：全印工連のCSR認定制度については、組合に入っている人間は価値が分かるのですが、対外的な周知が不足しているように思います。同様に、Pマークと同等の効果があり価格が安いと全印工連が推奨しているJPPS（日本印刷個人情報保護体制制度）についても、ある地域では周知不足で同等とみなされなかったという報告がありました。周知・啓発は絶えず行っているのですが、それでも伝わっていないというジレンマがあります。

また、印刷組合では理事長が中心になり、毎年京都府、京都市への陳情活動を行っています。他地域の支部長から伺った話では、亀岡市では、印刷組合の理事長名で要望書を提出して効果的だったという報告を伺っています。また、京丹後市では、支部会員独自の陳情活動を行い、成果を挙げておられると伺っています。このように、組織としての活動ができるのも組合のメリットだと思います。京都市外の他の支部におかれても、陳情活動を行う際には組合という組織を活用しては如何でしょうか。行政に対し、組合員とアウトサイダーの違いを認識して頂けるのではないかと思います。

山下：最近、デザイン担当者の印刷品質に対する要求が多く、印刷の立ち合いが非常に増えています。立ち合いで了承をもらえばよいので楽な面もありますが、果たして蛍光灯の下で見た色と、持ち帰って会社の照明環境や自然光の中で見る色とは同じでしょうか。矛盾しているように感じます。

藤井：当社は自然光の中で色を見てもらっています。蛍光灯は環境により色が違って見えます。中には、自然光では同じ色に見えるのに、蛍光灯の下では違う色、例えば一方では緑、一方では茶色に見える色もあります。きちんと説明すれば、立ち合いに来る人にも理解して頂けます。

山下：身近で役立つタイムリーな情報として、印刷会社の現場が困っている課題の解決方法を組合員にお知らせできれば喜んでもらえると思います。こうすればうまく刷れた、或いは逆に失敗したという情報も有益だと思います。

藤井：当社はパッケージを作っていますが、PP加工するだけで色が変わります。網が浮くためです。

山下：そうした後加工についての留意点についても、知っていればお互いに仕事がやりやすくなる。組合員間で情報が共有できれば全体のレベルアップにも繋がる。

藤井：印刷の仕事が少なくなった今こそ、印刷のトラブル集のような本を作るのも面白いかもしれません。

波部：印刷関連7団体が連携することで、改善策が見つかりそうです。少し工夫することで、加工時間が半日短くなる事例もあります。よいものを早く仕上げようとすると、後加工を考えて印刷しないといけません。

藤井：本日のように、お互いの失敗談や情報交換が行える機会が減っています。気心の知れた、少人数の会合だからこそできるのだと思います。

永田：月曜会ではよく失敗談を話し合っていました。仲間意識が強かったからできたのだと思います。

山下：私は支部活動について悩んでいた時、支部仲間から親身になったアドバイスを受けて助けられた経験があります。

藤井：支部会をはじめ、少人数での組合員の交流の場がもっと増えると良いですね。

笹原：支部間の交流も増えるといいですね。

波部：まだまだお話は尽きないところですが、予定の時間も超えておりますので、このあたりで控えさせて頂きたいと思います。本日はご多忙の中、本座談会にご出席賜り、そして貴重なご意見、ご提言を聞かせて頂き誠にありがとうございます。今後とも組合の広報事業にご協力、ご支援をお願い致します。

(文責・編集委員会)

